

2010年度 愛知大学・後援会・同窓会奨励賞授与式

(後援会課外活動奨励賞、同窓会奨励賞、公務員試験合格者奨励賞)



日時 | 2011年3月5日(土)11:00~12:30
場所 | 車道校舎 本館3階 コンベンションホール

プログラム

- 一. 開式
- 一. 挨拶 愛知大学 学長 佐藤 元彦
- 一. 愛知大学後援会課外活動奨励賞
選考結果報告 愛知大学 学生部委員長 有澤 健治
奨励賞授与
- 一. 愛知大学同窓会奨励賞
選考結果報告 愛知大学同窓会 広報委員長 堀田 久富
奨励賞授与
- 一. 愛知大学公務員試験合格者奨励賞
試験結果報告 愛知大学 就職委員長 樋野 芳雄
奨励賞授与
- 一. 受賞者代表謝辞
公務員試験合格者奨励賞受賞者 代表
課外活動奨励賞受賞者 代表
同窓会奨励賞受賞者 代表
- 一. 閉式

● 最優秀奨励賞

個人

おおしろ たつひろ
大城 立裕氏

1943年(昭和18年)東亜同文書院大学第44期予科入学



沖縄初の芥川賞作家

◆ 推薦趣旨 ◆

本土復帰前の沖縄を舞台に描かれた著書「カクテル・パーティー」は、1967年2月『新沖縄文学』第4号に発表され、同7月、第57回芥川賞を受賞し、沖縄初の芥川賞作家となる。沖縄の矛盾と苦しみと誇りをみつめた小説、戯曲やエッセーなど多くの作品を発表した。

昨年7月に開催された、日本演劇協会創立60周年記念 演劇人祭では沖縄芝居や新作組踊の創作が評価され、演劇功労者としても表彰された。

◇ 略歴 ◇ 1925年 沖縄県中頭郡中城村生まれ/1943年 沖縄二中卒業。県費派遣生として、東亜同文書院大学予科入学/1946年 敗戦にともなう大学閉鎖のため、学部2年中途退学/1965年 琉球政府通産局通商課長/1967年 第57回芥川賞を受ける/1986年 沖縄県立博物館長で定年退職

かなまる かずお
金丸 一夫氏

1948(昭和23年)旧制法経学部経済学科卒業



同窓会及び愛知大学育英奨学金制度への貢献

◆ 推薦趣旨 ◆

愛知大学の第1回卒業生(昭和23年度)で、初代の同窓会会長として同窓会の発展に大きく貢献していただくとともに、愛知大学滙友報恩(大分県)育英奨学金の制度を設立された。この制度は、大分県内の高等学校を卒業し、本学に入学した者のうち原則として1名に対し、授業料及び教育充実費の年額相当額を無利子で貸与し、併せて月額5万円を給付するものである。このことにより、学生のため、また愛知大学の発展に多大な功績を残された。

◇ 略歴 ◇ 1920年大分県に生まれ/1939年大分県派遣学生として愛知大学の前身校である「東亜同文書院大学」へ入学/愛知大学第1回卒業生/1948年愛知大学予科専任講師/その後中国研究社、アジア通信社の編集長(新華社通信) 歴任/1970年千葉商科大学教授/2004年愛知大学滙友報恩育英奨学金基金設立(注1)金丸一夫氏(愛知大学初代同窓会長)の寄付により、愛知大学滙友報恩(大分県)育英奨学金制度(大分県内の高等学校を卒業し、本学に入学した者のうち原則として1名に授業料及び教育充実費の年額相当額を無利子で貸与し、併せて月額5万円を給付。)が新設された。

とうまつ しょうめい
東松 照明氏

1954年(昭和29年)法経学部経済学科卒業



日本を代表としての世界の写真家として活動

◆ 推薦趣旨 ◆

愛知大学1年生の時の作品「皮肉な誕生」は、1950年愛知大学第2回写真展に出品し、東松作品が最初に印刷、新聞に掲載された由緒ある作品である。戦後の日本、当時の世相を「皮肉な作品」で、黒地をバックに、卵を持ったお兄さんの2本の指が、英字新聞を突き破るといふ、日本再生を意味すると理解されるメイキングフォトの代表作であり、写真家としての出世作となったものである。それ以来、この60年間、「日本の秀でた戦後の写真家、芸術家として、日本アバンギャルド(前衛的芸術家)」として世界各地で称えられている。

また平成17年春、愛知大学が「社会における認知度を高め、大学のブランドイメージを訴求を図る」として、『皮肉な誕生』を豊橋駅と愛知大学前駅の二ヶ所に大型電照看板に使用。

◇ 略歴 ◇ 1930年愛知県名古屋生まれ/1950年愛知大学法経学部入学・写真部入部/1952年全日本学生写真連盟結成・中部地区代表委員/1954年愛知大学卒業、岩波写真文庫特別嘱託/1957年第1回日本写真批評家協会新人賞/1959年第5回毎日写真賞/1965年多摩芸術学園写真科講師/1966年東京造形大助教授/1981年「いま東松照明の世界展」全国30ヶ所巡回/1985年オックスフォード現代美術館出展、イギリス・アメリカ巡回/1995年紫綬褒章/1999年「日本列島クロニクル東松照明の50年」東京都写真美術館・豊橋美術館/2003年中日文化賞/2006年愛知曼陀羅(名古屋)/2007Tokyo 曼陀羅など、沖縄、長崎、京都曼陀羅を含め、全国に曼陀羅シリーズを展開した。

あらかわ きよひで
荒川 清秀氏

愛知大学国際コミュニケーション学部教授/孔子学院院长



①中国語教育と研究 ②大学の信頼と名声

◆ 推薦趣旨 ◆

愛知大学へ赴任以降、学生への中国語教育、若手・中国語研究者育成を熱心に取り組みされた。中でも特に、「現代中国語の文法と語彙」「日中対照研究」「近代の日中語彙交流」等について研究を重ねて、日中の研究者から高い評価を受けている。

愛知大学孔子学院の設立に尽力され、この規模は世界の孔子学院の中で最大のものであり、さらに孔子学院による年2回の公開講演会、パートナー校南開大学への短期留学ツアー等は、毎回募集と同時に満席となり市民・学生から人気が高いものとなっている。

また、大学および孔子学院の講師に学内より若手講師を登用・育成に努めており、中国・南開大学等からも優秀な講師を招聘し講師陣の充実を図り日本国内トップレベルの講師陣とし、全国の大学関係者から注目され、日中文化交流・大学間交流・市民の人的交流となり、日中間の国際交流として大きく貢献している。

さらにNHK テレビ中国語講座「テレビで中国語」などの講師として「中国語研究・中国語教育」の高水準を全国発信し、日本国内でトップレベルの「信頼と名声」を強固なものとした。

◇ 略歴 ◇ 1949年兵庫県生まれ/1977年大阪市立大学大学院博士課程を修了後、愛知大学教養部講師に着任/1995年同教授/1998年国際コミュニケーション学部へ移籍。この間、1990年NHK ラジオ講座入門編講師、97年同応用編講師、08年同「まいにち中国語」講師。09・10年度「テレビで中国語」講師。日本中国語学会常任理事。中国語教育学会会長。専門は現代中国語の文法と語彙、近代の日中語彙交流。著書『近代日中術用語の形成と伝播』(白帝社)『一歩すすんだ中国語文法』(大修館書店)『中国語を歩く 辞書と街角の考現学』(東方書店)『体験的外国語の学び方』(同学社)共編著『東方中国語辞典』その他テキスト多数。

弓道部・荻野 陽介氏 | 文学部人文社会学科4年次生



体育会弓道部として好成績を収める

◆ 推薦趣旨 ◆

2010年8月9日～11日に日本武道館で行われた第58回全日本学生弓道選手権大会において、全国202校の代表選手1,010名参加選手の中で栄える男子個人優勝を愛知大学学生として初めて成し遂げた。

【2010年度弓道部 成績】

第53回東海学生弓道選手権大会 男子団体、優勝女子団体、優勝男子個人皆中賞 二十八連中、女子個人第10位
第44回愛知県学生弓道選手権大会 男子団体準優勝、女子団体準優勝、女子個人優勝、男子個人第5位、男子個人第5位
第58回全日本学生弓道選手権大会 男子個人第5位
第45回中日本弓道近畿選手権大会 男子団体優勝

◇ 略歴 ◇ 2007年 愛知大学文学部人文社会学科入学

● 優秀奨励賞

個人

荻野 孝氏 | 1953年(昭和28年)旧制法経学部経済学科卒業



愛知大学同窓会会報及び同窓会名古屋支部会報の製作・発行に係わる広報活動

◆ 推薦趣旨 ◆

愛知大学同窓会会報及び同窓会名古屋支部会報の製作・発行に係わる広報活動を、候補者荻野孝氏は大変に長い間(30年以上)続け、現在も継続活動中。

また、昭和63(1988)年愛知大学短期大学部に留学生別科が発足した年から、非常勤講師として勤務し「日本の歴史と文化」「日本の生活と習慣」という内容での講義をし、平成12(2000)年70歳を機に定年退職をするまでの12年間務めた。

◇ 略歴 ◇ 1929年(昭和4年)生まれ。西尾市出身。1953年(昭和28年)愛知大学旧制法経学部経済科28年卒(豊橋)。卒業と同時に朝日新聞社に入社。名古屋を振り出しに、東京、北海道で勤務。在学中は新聞学を学び、1950年=昭和25年から新聞部で愛知大学新聞の編集に携わりました。当時、先輩の霞堂氏、加藤義行氏(日本経済新聞社入社、のちに大阪本社代表、テレビ大阪社長)らの指導を受けて、新聞づくりに生きがいを感じ、新聞一筋。定年後は新聞社の自費出版部門で2004年(平成16年)まで自分史、社史、写真集など本づくりに努めました。

堀 隆三氏 | 1960年(昭和35年)法経学部経済学科卒業



地域スポーツの普及

◆ 推薦趣旨 ◆

昭和23年創立された愛知大学馬術部の創成期に、中部の学生代表として全日本学生選手権等で活躍し、中部唯一の私学校愛知大学馬術部を強豪校とし、現在の馬術部の土台を築き上げる。地域スポーツの振興のため馬術クラブを設立し、自らも国民体育大会に多くの出場をし、馬術の普及・振興に尽力され愛知大学馬術部も多大な技術指導を受けた。

このたび永年に亘る馬術界の功績により、平成21年に岐阜県スポーツ功労者として、また平成22年度には(社)日本馬術連盟より功労者として表彰される。

◇ 略歴 ◇ 1937年 岐阜県生まれ/1959年 全日本学生選手権3位/1960年 愛知大学法経学部卒業/1965年 岐阜団体入賞/1966年 大分国体ほか全日本馬術選手権等数々の大会に出場/1985年 岐阜県馬術連盟の理事に就任後、副会長を経て2006年から2010年まで会長を務め、現在は顧問となる。また日本馬術連盟1級審判員として、主に中部地方で数々の馬術競技大会の審判員・審判長を務める

中山 弘氏 | 1963年(昭和38年)法経学部法学科卒業



中国での日本語教育と貧困児童・学生への支援等

◆ 推薦趣旨 ◆

(1)中国国内での日本語教師としての活動のほか、(2)関東4支部同窓会での中国語講師としての活動を理由として推薦。
(1)について 2001年9月～2009年7月の8年間に亘り、①北京語言文化大学(現北京語言大学)、②寧夏回族自治区銀川市立唐来中学(高校)、③北京涉外经济学院、④北京連合大学国際語言文化学院、⑤黒竜江省鶏西誠実学院、⑥上海精華日本語専修学院など中国各地の教育機関で、日本文化事情等に力点を置いた語学教育を行った。学生指導総数は3,395名に達する。なお、日本語指導のかたわら、この間(i)寧夏回族自治区貧困地区における女童援助、(ii)女子大学生への援助、(iii)小学校への図書贈呈、(iv)貧困家庭の家構築費援助など総計25,000円の資金援助、また、これとは別に、(v)北京語言文化大学に図書70冊余、(vi)上海精華日本語専修学院に図書125冊、(vii)浙江省平湖学校に図書・ビデオをそれぞれ贈呈、さらに(viii)本学大学院へ3人の中国人学生の留学紹介と資金援助等々を行っている。
(2)について 本学6月から関東4支部連絡協議会の決議によって開設・スタートした「中国語講座」(主として関東地区在住の同窓生を対象)の講師役をボランティアで引き受けてもらい、中国語学習を行っている。受講生の年々の漸増が期待されているところである。

◇ 略歴 ◇ 1940年 富山県富山市生まれ/1963年 愛知大学法経学部法学科卒業/2001年 東京都庁退職/2001年 北京語言(文化)大学外国語学院日本語科日本語教師/2003年 寧夏回族自治区銀川市立唐徕回民中学(高校)日本語教師/2005年 寧夏貧困地区女童教育促進会の救済資金実施計画に参加。北京涉外经济学院兼北京連合大学国際語言文化学院日本語教師/2006年 黒竜江省鶏西市誠実学院 日本語教師/2007～2009年 上海精華学院日本語教師兼事務局長

齊藤 正高氏 | 2001年(平成13年)大学院中国研究科(博士課程)満期退学



日本中国学会2010年度哲学・思想部門学会賞を授与

◆ 推薦趣旨 ◆

論文「『物理小識』の脳の心」(『日本中国学会報』第61号、2009年)で日本中国学会2010年度哲学・思想部門学会賞を授与。日本中国学会は、1949年に創立され、中国哲学・中国文学・中国語学に関する研究者を中心に、日本の中国研究の中核的学会である。齊藤正高氏は、本学文学部哲学科を卒業後、大学院中国研究科に進まれ、安本博名誉教授、宇佐美一博教授のもと研鑽を積み、岐阜大学を始め、本学でも非常勤講師を担当。今回の受賞論文は、明末清初という転換期における特異かつ難解とされる思想家方以智(1611～1671)の著作『物理小識』の精神の所在論を検討し、通説への実証的な反証を加えたものである。この点から今年度の日本中国学会賞が授与された。

◇ 略歴 ◇ 1970年 愛知県一宮市生まれ/1988年 一宮工業高校(電気科)卒業後、機械メンテナンス会社勤務/1994年 愛知大学文学部哲学科卒業/2001年 愛知大学大学院中国研究科博士課程単位取得満期退学/愛知大学・岐阜大学非常勤講師

● 最優秀奨励賞

団 体

ちゅうにちだいじてんへんさんじょ 中日大辞典編纂所



中日大辞典第三版刊行と卓越した編纂作業の継続に対して

◆ 推薦趣旨 ◆

中日大辞典の源は、東亜同文書院にある。1933（昭和8）年頃から終戦までに、十四万枚の華日辞典カードが作られたが、終戦時に国民政府に接收され南京図書館に保管された。このカードの返還を本間学長が希望・発議され、日本中国友好協会（理事長は内山完造氏）を通して交渉が進み、1954（昭和29）年末に返還される。

直後の1955（昭和30）年に華日辞典編纂処が発足、同時に華日辞典刊行会が設置され資金もない中、鈴木沢郎教授を中心に編纂作業がスタートし、以来60年近くの間第一版、第二版を刊行し、今回内容も充実し第三版を刊行。この実績・功績を高く評価し推薦。

一大学が、このような大辞典を編纂刊行しているのは世界唯一であり、この辞典を縁に中国の大学関係者の関心高く、第三版の編纂に際しても南開大学、北京語言大学、中国人民大学、西安交通大学等の先生方の協力があった。これらの関係は、愛知大学との学術交流の上で双方に有益なこととして高く評価され、特に現代中国学部生にとっては、中国語学習の上で、この辞典はシンボリック的な存在として精神的にも実質的にも大いに貢献している。

● 優秀奨励賞

団 体

だんし 男子バレーボール部



西日本インカレ制覇および東西王座決定戦にて全国3位ほか好成績を収める

◆ 推薦趣旨 ◆

昨年6月24日から27日に広島県立総合体育館で開かれた第36回西日本バレーボール 大学男子選手権大会（西日本インカレ）で見事優勝を果たした。西日本学生バレーボール連盟は静岡県から沖縄県までの東海・近畿・中国・四国・九州の5ブロックで構成され、今回各ブロックから55校の精鋭が集まり、東海学連からの優勝は愛大がはじめて。8月7・8日の両日、茨城県つくば市で開催された東西王座決定戦に出場し、全国3位となる。2010年秋季東海1部リーグで優勝、昨年秋季、本年春季・秋季とリーグ戦3連覇を達成。

● 奨励賞

団 体

ふじた 藤田ゼミナール



浜松市天竜区水窪町地域調査について

◆ 推薦趣旨 ◆

藤田ゼミでは、典型的な少子高齢化が見られる浜松市天竜区水窪町において、地域全体・住民の生活環境の調査を行い今後の地域おこしへの提言を行った。

まず水窪町の各種資源と生活現状を調査。この町の資源となる、ふるさとを愛する人、豊かな自然、伝統、特産品、観光施設などをそれぞれの資源ごとに調査を実施した。

これらの資源を生かして、各年齢層に対して、①生甲斐に繋がるテーマに沿って、現有の祭り・イベントを拡充し盛り上げる②自然・観光資源を武器に、地域外からの観光客招致に努める③各部門の相互連携を密にし、情報発信の強化に努める④地域振興課・商工会職員、各グループリーダー人材育成も必要である、と地域興しへの提言を行った。

えいがけんきゅうかい 映画研究会



サークル活動とボランティア活動で愛知大学 PR 周知及び地域貢献

◆ 推薦趣旨 ◆

(1. サークル活動)

映画研究会は、サークル活動として「自主制作映画」を毎年製作し学園祭等で上映している。今年2月、地域メディアであるCATV「ティーズ」が、数年来にわたる映画研究会活動の様子を最新作の製作プロセスとインタビューを2日間、合計2時間番組として放映した。「ティーズ」は豊橋市・田原市・新城市をエリアとする放送メディアであるが、視聴者の反応は早く、多くの意見や視聴した愛知大学 OB の激励を受けながら結果的に「愛知大学」の名を広く PR する形となった。

(2. ボランティア活動で愛知大学 PR 周知及び地域貢献)

2002年から毎年11月に豊橋市中心市街地一帯で開催され、今年で9回目となる「とよはしまちなかスロウタウン映画祭」には第1回からボランティアスタッフとして参加。その映画祭で、映画研究会メンバーは、9年間継続して手弁当スタッフとして準備段階から上映期間中のお客様案内や「チケットもぎり」まで交替で積極的に参加、実行委員会の中では不可欠な存在となっている。更には、映画祭期間中に自主制作作品の発表上映も定期的実施しながら、他大学に抜きん出て地域に溶け込み、文化向上と地域貢献の役割は大であり、地域貢献のみならず文化向上と愛知大学の名を広めた事を多に評価したい。

たいいくかいばじゅつぶ
体育会馬術部



中部学生馬術大会の活躍

◆ 推薦趣旨 ◆

中部学生馬術連盟（中部8県・17校）主催の中部フレンドシップ馬術大会・中部学生自馬協議会両大会において団体1位の成績を収め、この結果全国学生賞典障害飛越競技大会、馬術競技大会、総合馬術競技大会に中部代表として出場、また中部学生馬術連盟選手ランキング（個人）において小田祐一（4年）が1位にランクされ、馬術部が目標としている団体、個人に成果を出した。

げんだいちゅうごくがくぶしやんはいぼんぼく
現代中国学部上海万博ボランティアおよびインターンシップ参加学生



上海万博での通訳ボランティアにて活躍

◆ 推薦趣旨 ◆

昨年8月上旬、上海万博で開催された愛知ウィーク最終日にて名古屋のNPO法人「愛・地球子どもクラブ」が主催する中高生の国際交流「地球子ども会議 in China」の発表が行われ、選抜された現代中国学部の学生5名が通訳ボランティアとして参加し、通訳やコーディネイト、宣言の翻訳、さらに発表の司会役などで重要な役割を演じ大活躍した。

「地球子ども会議」は、愛知万博を契機に始まり、それ以降上海万博を目標に開催されてきた。今回、日本全国より17名の中高生が参加し、南京で現地高校生と会議を経て「世界中の子どもが幸せになるために・南京宣言」をまとめた。

通訳ボランティアは、「愛・地球子どもクラブ」からの要請に現代中国学部が応えたもの。

● **資格試験奨励賞**

新司法試験



荒川 裕子

2007年大学院法務研究科修了



中村博太郎

2008年大学院法務研究科修了



林 宗範

2008年大学院法務研究科修了



佐藤 正和

2008年大学院法務研究科修了



鶴田 智博

2008年大学院法務研究科修了



木田まり子

2009年大学院法務研究科修了



木庭 龍二

2009年大学院法務研究科修了



古谷 渉

2009年大学院法務研究科修了



早川 英里

2010年大学院法務研究科修了



飯田 真也

2010年大学院法務研究科修了



児島 貴子

2010年大学院法務研究科修了



服部 綾子

2010年大学院法務研究科修了



田中 拓海

2010年大学院法務研究科修了



田中 紀子

2010年大学院法務研究科修了



平塚恵理佳

2005年法学部法学科修了

公認会計士試験



若原 憲男

2008年大学院会計研究科修了



澤 浩平

2010年経営学部会計ファイナンス学科修了



鈴木 綾乃

2010年経営学部会計ファイナンス学科修了

税理士試験



新本 浩貴

2010年大学院会計研究科修了



内田 圭哉

2010年大学院会計研究科修了



小木曾 良

2010年大学院会計研究科修了



後藤 正悟

2010年大学院会計研究科修了



山田麻由美

2010年大学院会計研究科修了

愛知大学同窓会奨励賞授与取扱要領

目的

この取扱要領は、本会会員（滬友会、推薦校友を含む。）並びに愛知大学関係者（教職員、在学生等）が社会・文化・学術・芸術・スポーツ等の分野に於いて活躍し、または、これらの分野で活躍することが期待される個人又は団体に対し、愛知大学同窓会（以下「同窓会」という。）が「同窓会奨励賞」を授与するために定める。

表彰

表彰は、会員から推薦または申請のあった個人及び団体に対し、選考の結果、個人にあっては表彰状並びに副賞（記念品）、団体にあっては表彰状並びに副賞（奨励金）を授与する。

推薦

候補者の推薦（自薦を含む。）は、毎年12月20日までに社会・文化・学術・芸術・スポーツ等の分野で活躍のあった個人又は団体について、活躍の内容をまとめた推薦書（800字程度）を同窓会会長宛に提出する。ただし、叙勲及び功労賞等の受賞者は対象から除くものとする。

申請

資格試験奨励賞は、毎年12月20日までに、会員から同窓会会長宛に申請書および合格したことを証明する書類（写し）を提出する。

選考

会員から推薦のあった個人及び団体について、同窓会広報委員会で選考し、同窓会常任理事会で決定する。

表彰の種類

表彰の種類は、個人、団体とも次のとおりとする。

- A 最優秀奨励賞（全国レベルでの活躍）
 - 個人…記念品 10万円相当 団体…奨励金 10万円
- B 優秀奨励賞（地域レベルでの活躍）
 - 個人…記念品 5万円相当 団体…奨励金 5万円
- C 奨励賞（一般的な活躍）
 - 個人…記念品 3万円相当 団体…奨励金 3万円
- D 資格試験奨励賞

愛知大学（大学院、学部、短大）に在学中又は卒業した者で以下の試験に合格した者。

【対象資格試験】

- 1 司法試験 2 公認会計士試験 3 弁理士試験 4 国家公務員第1種試験 5 司法書士試験 6 税理士試験
- 個人…記念品3万円相当

附則(制定)

この取扱要領は、2003年1月18日から施行する。

この改正取扱要領は、2006年5月13日より施行する。